

SABO NEWS LETTER

第 162 号【発行日】令和 6（2024）年 6 月 10 日(月)【発行】(一社)全国治水砂防協会

目 次

1. 目 次 1
2. 国土交通省砂防部長よりご挨拶 2
3. (一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶 3
4. 国土交通省砂防部提供資料 4

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<https://www.sabo.or.jp/>

国土交通省砂防部長よりご挨拶

毎年6月は「土砂災害防止月間」です。冒頭に、今年度の全国的な取り組みについて少しご紹介をさせていただきます。今年も月間の啓発ポスターが作成されています（添付資料のとおり）。小学生の部では『土砂災害の死者ゼロへ』という警戒避難の大切さが、また中学生の部では『惨事を防げ、砂防ダム』というハード整備の大切さがそれぞれ表現されていて、まさに土砂災害防止月間にふさわしい内容であり、是非このポスターを御活用いただければと思います。

また6月6日には、広島市内において「土砂災害防止全国の集い in 広島」が開催されます。私もこのイベントのパネルディスカッションに参加させていただいて全国的な見地から、国土交通省としての実施する緊急調査や災害関連工事の実施、また過去の災害の教訓を踏まえて将来にどのように災害経験を継承し、今後の警戒避難に生かすのか、といった点を中心にお話をさせて頂く予定です。

また令和6年は、元旦から能登半島における大地震からスタートしましたが、降雨についても豪雨の危険性がある時期に入ってきました。5月末には、鹿児島県や宮崎県でかなり強い雨が降りましたが、幸いにも大きな被害は発生しませんでした。

そして今後の気象予測では、6月は梅雨前線の北上が遅れ本格的な梅雨の到来は例年より遅れるとの事です。一方で、7月は、梅雨前線が停滞しやすくなり、西日本や東日本の太平洋側を中心に長雨が発生するリスクがあるため大雨には警戒が必要との予測がなされています。

会員各位の地域におかれましても、この土砂災害防止月間の期間中に、防災訓練や土砂災害の危険箇所点検等、さまざまな取り組みが企画されている事かと存じます。これらの取組は、行政のみならず地域住民の方々の参加が必要なものが多いため開催の負担が大きい一方で、その効果も大きいことも過去の事例から明らかところです。

国土交通省におきましても、会員各位の皆様方の地域における防災教育や啓発活動を支援する「ダイナミック砂防プロジェクト」の推進にも着手をしております。これらの活動を通じまして、本年の土砂災害の防止・軽減が一層図られますことを切にお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和6年6月1日 国土交通省砂防部長 草野慎一

(一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶

会員の皆様へ

6月に入り、いよいよ雨のシーズンを迎えつつあります。沖縄・奄美地方は5月21日ごろ、梅雨入りが発表されました。両地方とも昨年より3日遅く、沖縄では平年より11日、奄美では平年より9日遅い梅雨入りとなりました。梅雨入り早々に、沖縄県宮古島市平良の鏡原では、1時間に100.0mm（観測史上1位の値を更新）と記録的な大雨を観測しています。最近は極端な豪雨が生じやすくなってきています。本格的な雨のシーズンはこれからですが、土砂災害防止月間である6月に今一度、災害に備える準備をしなければなりません。

さて、去る5月23日に砂防協会の総会が開催されました。斉藤鉄夫国土交通大臣他多くの来賓を迎え、約1,100名の参加者のもと無事に開催いたしました。ご参加いただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今年は総会開催前に、特別講演として元気象庁長官の西出則武氏（当協会理事）により「地震津波の警報等について—令和6年能登半島地震を事例として—」と題してご講演をいただきました。予知予測が困難な地震ですが、できる限り人的被害を少なくするため、気象庁が大変な努力をして地震に関連する情報を発信していることがよく分かりました。会員の皆様にも大変役立つ内容の講演であったと思います。

今、日本では気候変動の影響で豪雨による土砂災害が増えており、年間平均1,400件もの土砂災害が発生しておりますが、実は地震活動も活発な時期に入っているようです。今年1月1日に発生した能登半島地震では455件（国土交通省調べ、令和6年4月30日時点）もの土砂災害が発生しております。大きな地震が発生しますと、同時にあちらこちらで地すべりやがけ崩れなどの土砂災害が発生します。いわゆる同時多発型の激甚な災害が起こり危険ですし、場合によっては津波、火災などとの複合災害も発生します。頻度は豪雨よりも少ないですが、地震は対応が難しい現象であり、細心の注意が必要です。砂防の分野におきましても、豪雨に対する備えは土砂災害防止法なども制定され、ハード、ソフト両面から進んできておりますが、地震に対する備えはまだまだ不十分です。地震に備えるための砂防対策、つまり地震砂防に今後は力を入れていく必要があると思います。

今回も草野砂防部長から挨拶文をいただきました。また、砂防部からは土砂災害防止月間のポスター・絵画をはじめ、昨年実施された避難訓練の様子など、土砂災害防止月間にちなんだ貴重な資料を提供いただきました。是非お目通しくださいますように。

令和6年6月10日
一般社団法人 全国治水砂防協会
理事長 大野 宏之

みんなで 防ごう 土砂災害



平成26年8月豪雨災害



広島県広島市安佐南区

土砂災害から

いのちとくらしを守る砂防施設



最優秀賞

小学生の部

国土交通大臣賞

久保木千尋

千葉県香取市立佐原小学校 6年



最優秀賞

中学生の部

国土交通大臣賞

小山田 歩

千葉県香取市立小見川中学校 2年

土砂災害から身を守る
3つのポイント……

あなたも
危険な場所にお住まいかも



土砂災害防止月間 6/1→30

がけ崩れ防災週間 6/1→7

主催 国土交通省・都道府県

後援

内閣府、消防庁、文部科学省、厚生労働省、林野庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、一般社団法人日本新聞協会、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人全国治水砂防協会、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構、(NPO) 土砂災害防止広報センター、全国地すべりがけ崩れ対策協議会、一般社団法人斜面防災対策技術協会、一般社団法人建設広報協会、砂防ボランティア全国連絡協議会

令和5年度 土砂災害・全国防災訓練の実施事例

【福井県小浜市(令和5年5月実施)】
・地域住民の避難所への避難訓練



【長野県安曇野市(令和5年6月実施)】
・土砂災害警戒区域の合同点検訓練



【香川県三豊市(令和5年6月実施)】
・自治会や近所でのまとまった避難訓練



【高知県土佐市(令和5年6月実施)】
・県・市・気象台が連携した土砂災害警戒情報等の協議訓練



【佐賀県玄海町(令和5年6月実施)】
・訓練による避難の声かけ、安全の確認



【沖縄県糸満市(令和5年6月実施)】
・訓練による要配慮者避難補助



土砂災害ってなに？

大雨などが引き金となって、大量の土砂が崩れたり動いたり、水と一緒に流れたりすることになる災害のことです。地震の揺れが直接的な原因となることが多い土砂災害もありません。また、大きな地震のあとには、地盤が崩れやすくなっているため、少しの雨や余震でも土砂災害が起きやすくなります。

がけ崩れ(斜面崩壊)

急な斜面が崩れる



- 傾斜が30度以上ある斜面が危ない。
- 大量の雨が地中にしみ込み、土がゆるむ。
- 大雨の時に一瞬のうちに起こることが多いため、逃げ遅れて助からないおそれもある。
- 雨が止んだ後に起こることもある。雨が止んでも数時間は注意。
- くすねた高さの2倍くらいのところまで土砂がおそってくることもある。

土石流

山から崩れた土や石が、水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ下ってくる



- 大雨や雪の引き金になる。梅雨や台風の時期は特に注意。
- 速いときは時速40キロ以上。大きな岩も流れてしまう。
- 雪と水で発生することもある。

地すべり

やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く



- 雨水や雪が地中にしみ込んで起こる。
- 家や田畑といっしょに大地がゆっくり動くこともあり、突然一気に何十メートルも動くこともある。
- 地震が原因で起こる地すべりもある。

河道閉塞(天然ダム)

崩れた土砂が川をせきとめる



- 地すべりやがけ崩れの土砂、土石流で流れてきた土砂が、ダムのように川をせき止める。
- 天然ダムの上流側は水がたまり、家や田畑が水につかる。
- 天然ダムはやがて、たまった水の水圧で一気に崩れ、下流に土石流が押し寄せる。

こんな変化に注意

土砂災害の前兆(現象)

身のまわりでこんな現象が起こったら、すぐに近所の人や役場に知らせ、安全な場所に避難しましょう。特に大雨が降っているとき、降ったあとは要注意です。

がけ崩れの前ぶれ

- ① けから小石がバラバラ落ちてくる。
- ② 樹木がゆれたり、かたむいたりする。
- ③ 斜面にひび割れができる。
- ④ 斜面から水がわき出る。

立寄り避難が困難な時は、けから離れた部屋や2階などに避難しよう。

土石流の前ぶれ

- ① 川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする。
→上流の山が崩れ、大きな石がぶつかり合いながら流れてくるため。
- ② 川や沢の流れがにごり、生木が流れてくる。
- ③ 上流の山が崩れて、土砂や水が川や沢を流れているため。
- ④ 山崩れがする、異常なおいがする、地鳴りがする。
→上流で山が崩れているため。
- ⑤ 雨がふり続けているのに川や沢の水が減る。
→上流の川や沢が崩れた土砂でせき止められているため。土石流の危険がせまっている。

土石流から逃げるときは、川から離れたなるべく高い所にあろう。

地すべりの前ぶれ

- ① 池の水がにごり、減ったりする。
- ② 山の樹木がガタガタとさくさく、木の裂ける音や木の根が切れる音がする。
- ③ 地鳴りや山鳴りがする。
- ④ わき水がふえる。
- ⑤ 地面にひび割れや段差ができる

ここにあげたのは前兆現象の一例です。このほかにも「いつもと何か違う、変だ」と感じたら、役場や近所の人に知らせて安全な場所に避難してください。

土砂災害警戒区域の看板

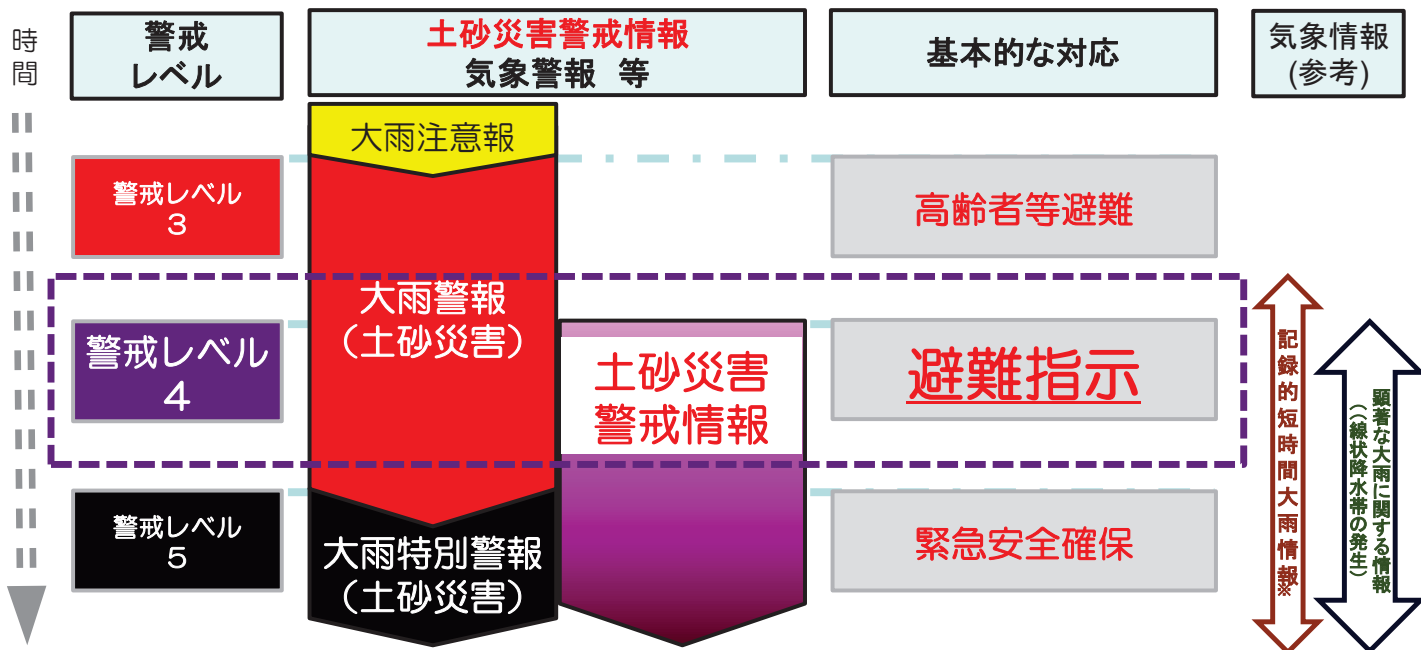
近所にこういう看板はないですか？

がけ崩れ、土石流、地すべりの危険が大きい場所を示しています。これらの場所は特に注意しましょう。



土砂災害警戒情報の発表とその対応について

令和3年5月の災対法、土砂災害防止法の改正により、**避難勧告・避難指示は避難指示に一本化**。
土砂災害警戒情報（レベル4）が発表された場合は、**市町村長**は躊躇することなく**避難指示を発令**する。
都道府県は、市町村長が躊躇することなく発令できるよう、**ホットライン等で助言を実施**。



※記録的短時間大雨情報: 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析した場合に発表。大雨警報発表中に、キキクル(危険度分布)に「非常に危険(うす紫)」が出現している場合に発表。

その悩み、ダイナミックSABOプロジェクト支援チームへ

- 防災啓発や地域活性化に意欲はあるけれど、どんな取組ができるか、ひょっとしたら地域のSABOをうまく使えないか？そんなとき、取組事例や課題の共有、意見交換、対応案の相談ができる窓口として、「ダイナミックSABOプロジェクト支援チーム」を設置しています。
- 既にいくつかの地域では、市町村や民間団体等が主役となった「ダイナミックSABOプロジェクト」で地元を大いに盛り上げています。新たな地域での新たな取組にも、そうした他地域の先駆的「ダイナミックSABOプロジェクト」の情報、人、取組がヒントになるかもしれません。
- 「ダイナミックSABOプロジェクト支援チーム」は、国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部が事務局となり、関係都道府県や地方整備局等はもちろんのこと、全国において先駆的に取組を実施している市町村や民間団体等と連携しながら対応しますので、お気軽に御連絡ください。

ダイナミックSABOプロジェクト支援チーム 事務局（砂防部 各課室）



防災啓発、地域活性化における取組の課題

- マニュアルはたくさんあるけど、どれを見たら良いかわからない
- よくある「成功事例」って、セールスポイントは分かるけど、実務的な手法や悩みがわからない
- 地域特性や関係機関との個別の確認・調整が難しそう

情報、人、取組をつなぐ

事例の収集・発信だけでなく、事例や課題を丁寧に分析し、具体的な手法を相談、意見交換できる仕組みの構築